

あ と が き

以上、提示した問題の殆んどは高校の教科書からの引用である。従って、間違いの深刻なことが少しはわかっただけは貰えたと思う。全ての生徒が数学をこのように学んでいるのである。とんでもないことである。

この内容を読んで「これは、各問題に対して1つの別解を書いたに過ぎない」と評した人がいる。そのように見る人が多いだろうということは始めから予想していたことであり、また一番恐れていたことでもある。

私が云いたいのは「その考えこそが間違えである」ということである。数学はより易しい解法を見つけねばならないのであり、より簡潔な記述、表現をしなければならないのである。それを心懸けない限り、真の数理的思考力は育たないのである。

最近になって大学生の数学などの学力低下が問題になっているが、今に始まったことではない。私の実感では40年前から進行して来たのである。それがゆるやかな下降線のために、人々の目にはっきり見えなかったのである。

私の警告は遅きに失した感があるが、今からでもなんらかの改善を心懸けて行くための具体的な参考となれば幸いであると思って書いたの次第である。

以上

< 著者紹介 >

ふじいあきお
藤井章夫

1930年2月20日生まれ
開成学園教諭、日本能率協会
EDP 研究員、日大応用数学
科専任講師、セントラル電子
計算センター所長、日本情報
開発システム部長を経て、
1980年より駿台予備学校
数学科講師、2000年1月退職。

高校数学の間違ひに関する 11 章

2000年2月20日	第1版1刷発行	著者 藤井章夫 ©Fujii Akio 2000
		発行者 開成学園高校 37年卒6組有志
		事務局 東京都練馬区平和台 1-15-3 篠田東洋児
		電話 (03)3937-1985 FAX (03)3937-1985
		E-mail: shinoda@kyowa-ei.co.jp
印刷・製本	(有)アイ・シー印刷	Printed in Japan

* 無断で転載することを禁じます。

* 本書に関するご感想、ご意見を事務局までお寄せ下さい。

(本書は著者の許可を頂いて ISSF 図書館に収めさせて頂きました。ISSF 事務局)